

---

# 風のように

風林火山

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

風のように

### 【Nコード】

N0189C

### 【作者名】

風林火山

### 【あらすじ】

主人公「雷鬼」の人生を描いた物語です。

## 第1話：旅立ち

俺の名は雷鬼「らいき」

後に皆は、俺の事を「赤眼の忒刀鬼」と恐れるようになる。

幼い頃から剣術・弓術・馬術・兵法を父に習い、父の戦を何度も見に行き、その勇猛な姿を何度もこの眼に焼き付けた。

俺が15歳になった年の十五夜の夜、突然父に呼び出された。

「雷鬼よ主ももう元服を迎えた。次の戦、父と共に戦え！」

幼い頃から父の勇猛な姿に憧れていた俺は何の迷いもなく了解した。

「御意、父上話しと言つのはそれだけですか？」

「うむ。」

「それでは失礼する。」

それから今まで以上に訓練をつんだ。

そして…

「最近農村を山賊共が荒らし回ってるそうだ。雷鬼支度をせい、賊共を蹴散らしてやるうじゃないか。」

「父上、賊の戦力はどの位の物なのですか？」

「軽く五百はいるだろうのう。まあ大したことはない、相手はただの賊だ。」

「なるほど、すぐに支度をして参ります。」

支度が終わると、父と俺、配下千人の兵士を連れて山賊に襲撃されている農村へと向かった。

農村に着くと目を覆いたくなるような光景が眼下に広がっていた。

家は焼かれ、若い女は連れて行かれ、老人と男、子供は無惨にも殺されていて、村人の悲鳴と賊共の卑劣な笑い声だけが聞こえるだけだった。

「酷い有り様だな、皆の者情けはいらん、賊共を蹴散らしてやれ。」

俺も先陣に立って賊を懲らしめてやるわい。」

「父上私も先陣に立ちます。」

「雷鬼、お前は後から援護してくれ。」

「私は父上のそばで戦いたい。」

「わかってくれ雷鬼、お前の剣さばきは認めるが戦慣れしてないからな。」

「…御意。」

「では突撃。」

俺達は農村を襲う山賊に猛攻をかけた。

「おい見ろよ、あの旗本は火斬軍だ。思った通り出て来やがった。待機させておいた仲間を呼べ、山賊の恐ろしさ思い知らせてやるじやねえか。」

先陣にいた父達は山賊に完全に囲まれてしまった。そして…

「大将の首とつたぞ。」

「風鬼様がやられた。雷鬼引き上げよう。」

その時俺は怒りで我を忘れ、勝利を噛み締めている山賊の中へ突っ込んでいった。

「若までやられてしまつ、全員若を助け出すんだ。」

助けが来たけれどそれ不要だった。

「お前達の頭の首とつたぞ。」

まさに神業だった。

「何だあいつは、」

「赤い眼をした鬼だ。」

この事があってから「赤眼の忒刀鬼」と噂されるようになった。

「父上の葬儀を行う。」

父上他賊との戦いで死んだ者の葬儀をしめやかに行った。

「聡守…すまないが俺は旅にでる。城を頼む。」

「雷鬼様。」

「何も言つな聡守。信頼できるお前だから任せたい。俺の留守を任せたよ…。」

そう言つて俺は家来の聡守に城を任せ旅にでる事にした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0189c/>

---

風のように

2010年10月20日18時44分発行